

昭和40年代の道分析化学会

松永 勝彦

創立 50 周年お祝い申し上げます。分析プロパーでもない私が筆をとることもないと考えていましたが、私が支部の会員になって 41 年になること、また 40 年代は分析化学会で私も発表していましたので当時のことや函館の学会の状況に触れてみたいと思います。

私は昭和 41 年に西村雅吉先生に助手として採用していただきました。最初先生から硝酸塩の高感度分析法の開発を言われました。大学院時代は化学反応の計算をしていましたので、硝酸塩を還元するには何がベストかについて毎日計算したことを覚えています。

当時西村先生の先生である太秦康光先生が函館高専の校長をされていたので、時折西村先生を訪ねておられていましたが、先生の先生ですから雲の上の方であり、話をさせていただいたことはありませんでした。西村先生の年代には梶目清一郎、神原富民、藤本昌利、青村和夫、永山政一、木村道也、錫谷 徹、藤本昌利、室住正世先生などそうそうたる先生方が活躍されていました。この先生方とは気楽に話せない雰囲気がありました。年長者を敬う儒教の精神が当時の日本にはまだ色濃く残っていたからかもしれません。

このことに関連したことも触れておきます。西村先生は退官後札幌にもどられましたが、私は時折お邪魔していました。私の教室に JICA などタイから研究者が毎年のように来ていましたが、タイ人を連れて本学に出向き夜は西村先生宅にお邪魔しようということになりました。彼はビールが好きで函館での夕食には必ず数本のビールを飲んでいました。夕食は札幌ビール園でジンギスカンを食べましたが、彼はアルコールを飲もうとしないので、体調でも悪いのかと思ひ何故ビールを飲まないのかと訊いたところ、彼は私の先生に会うのにアルコールを飲んで会っては失礼だと述べました。タイでは先生と一緒にアルコールを飲むことはほとんどないと言っていました。今でもタイでは先生は雲の上の人なのです。

先生が彼にアルコールをすすめてもなかなか飲もうとしませんでした。水割りを一杯だけいただいたように記憶しています。彼はアルコールが好きでないのかと先生から聞かれましたので、彼はアルコールがものすごく好きで毎日飲んでいますが、先生の先生の前では緊張してとても飲めないと言っていると返答しました。日本では考えられないから、先生は驚いていました。

彼に論文博士をとらせましたが、いまだにタイから 2 ヶ月に 1 回程度電話をかけてくれます。たいした世話もしませんでした。感謝の気持ちが伝わってくるようで嬉しく思っています。彼の人間性を感じました。

大先生の次の世代には吉田仁志、多賀光彦、中谷省三、渡辺寛人、四ッ柳隆夫、太刀川哲平、石田良栄、那須先生などとは多少気楽に話をさせていただきました。私とほぼ同年齢の中谷 周、長谷部 清、大関邦夫、斉藤紘一、田村紘基先生などとは親しくさせていただきました。

函館では角皆静男先生が西村先生の後を継ぎましたが、角皆先生が札幌に移られたこともあり、私が西村先生の後を継いだ形になりました。私が支部の理事をさせていただいたとき、会員増強が主議題でした。そこで分析プロパーの板橋 豊氏に会員になってい

ただきましたが、期待に応えていただき支部長もされました。それと教室の久万健志氏にも会員になってもらいました。

函館で日化支部大会も開催しましたが、分析化学会ではトレースアナリシス国際シンポジウム (ITAS) が函館、札幌で開催されました。当時支部長をされていた渡辺寛人先生から費用が少ないので会場選びはそれも考えてほしいということと、会場は変わり映えしない大学ではなく変化をもたらしてほしいとの要望がありました。むつかしい注文でしたので、苦勞しましたが、函館一番の観光地で異国情緒豊かな赤レンガ倉庫群を会場にしたいと考え交渉したところ、懇親会をやってくれるのなら会場費は無料にするとわれそこを会場にきめました。しかし、机、椅子もないため、学生を総動員して大学からそれらを運び、数日かけて会場設営を行いました。

国外からはロシアが主でしたが、その他の国からも参加者がありました。スクリープス海洋研究所を修了した久万氏の英会話力があって無事に学会を終えることができました。会場はエキゾチックな雰囲気であったこともあり、後日印象に残る会場で開催してもらったと多くの先生から言われましたので、苦勞したかいがあったと思いました。

支部の創立には太秦先生、西村先生、墓目先生などのご尽力があつて今日の支部が存在したと思います。私事になりますが、西村先生のおかげで今の私があるわけで、会員として、また個人としても先生に感謝しています。支部の益々のご発展を祈ります。

なお、昔のことで資料も残っていませんし、記憶もあいまいになっており、間違いがありましたらお許しください。

(四日市大学)
(北海道大学名誉教授)